

# 新研究テーマの紹介

## アセットマネジメントの実践に向けた次世代型マンホール蓋技術マニュアルに関する共同研究

研究第二部 主任研究員  
廣兼 武



### 1 研究の背景

2007年に発行された現行技術マニュアル「次世代型マンホールふたおよび上部壁技術マニュアル」では、交通車両の大型化や集中豪雨等によるマンホール蓋飛散等を受けて、マンホール蓋に求められる安全性能を規定しました。

その後、下水道事業も普及から維持管理の時代を迎え、マンホール蓋ストックの増加や老朽化、集中豪雨や地震等の自然災害の激甚化、さらには脱炭素やSDGsといった環境への配慮など、現行マニュアル発刊以降の社会情勢の変化に対応したマンホール蓋が要求されるようになりました。

### 2 研究体制

#### 2.1 研究期間

令和5年4月～令和6年3月

#### 2.2 研究体制

次世代型高品位グラウンドマンホール推進協会、(株)G&U技術研究センター、管清工業(株)、(公財)日本下水道新技術機構

### 3 研究の目的

本共同研究では、このような社会情勢の変化を踏まえ、下水道事業におけるアセットマネジメントに貢献することを目的として、安全性や耐久性、LCC削減に

寄与する新たなマンホール蓋の性能、機能について検討していきます。

### 4 研究の内容

主な研究内容を以下に示します。

#### (1) マンホール蓋に求められる性能規定の向上

ストックマネジメントからアセットマネジメントへの転換が求められる中で、従来のマンホール蓋の基本性能等について、安全性や耐久性向上の観点で、マンホール蓋に求められる性能を検討します。

#### (2) LCC削減や業務効率化効果の算出

設計～点検～改築までの一連の業務における課題をアセットマネジメントの視点で抽出し、その課題を解決するためにマンホール蓋として寄与できること、それを実現するためのマンホール蓋の性能の整理を行います。

### 5 おわりに

本共同研究の期間は、令和5年度末までを予定しています。今後、自治体等へのアンケートやヒアリングを行うとともに、ケーススタディによる検討を踏まえ、令和6年度初旬の発刊に向け取り組んでいきます。